

第 7 章

調査・分析についての今後の検討課題

県民の主観的な幸福実感などを把握し、県政運営に活用することを目的として開始したみえ県民意識調査も今回で5回目を迎えました。これまでの調査の分析結果については、少子化対策に関する議論の材料や、「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」及び「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定のための資料等として活用を図ってきたところです。

今回の調査・分析では、幸福感、幸福実感指標、家族等に関する質問を行い、経年変化の分析を行うとともに、県政の課題や今後の県政の課題になりうる分野について、分析の視点を設定し、政策の示唆につながる主なデータを示すとともに、政策の示唆を提示しました。また、「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」では、幸福実感日本一の三重をめざし、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりに取り組むこととしていることから、「新しい豊かさ」に関することを新たに質問し、分析を行いました。

この章では、これまで行ってきた調査・分析を踏まえ、今後検討が必要だと考えている課題についてまとめました。

1 経年変化の把握

データ比較を行う際には、単純に平均値や割合などの数字の大小により判断するのではなく、数字の差に統計的な有意性があるかについての確認作業に努めましたが、アンケート結果は社会情勢などさまざまな要因に左右される可能性があることから、今後も調査を継続し、経年変化を見ていくことが重要であると考えています。

2 幸福実感指標の活用

「みえ県民カビジョン」では、「幸福実感日本一」の三重をめざすことから、政策分野ごとの15の「幸福実感指標」を設定し、「県民指標」に加えて、「幸福実感指標」の推移を把握することで、行動計画全体としての進行管理に努めることとしています。

このため、第2章で属性クロス分析による特徴や傾向、これまでの5回の調査結果の推移を把握するとともに、第3章から第6章では、関連する設問とのクロス分析を実施しました。引き続き、県として注力していくべき課題を考える際の手掛かりにできるよう取り組んでいくことが必要であると考えています。

3 幸福実感と「新しい豊かさ」の関連

今回の調査では、新たに「新しい豊かさ」に関する分析を行いました。引き続き、「新しい豊かさ」を享受できる、めざすべき三重県の姿として、県民の皆さんがどのような希望を持っているかを継続的に把握し、今後の検討に資するような分析を行うことが重要であると考えています。

4 政策や施策の検討材料として活用

この分析レポートは、みえ県民意識調査の分析結果の範囲内で考察したものであり、今後、庁内の関係部局等において、さまざまな機会を通じて把握に努めている現場のニーズや他の統計調査の結果等と合わせ、政策や施策の検討材料の1つとして活用していくことが重要であると考えています。

5 より効果的な調査の設計

より多くの県民の皆さんに回答していただけるよう、調査票の設計について専門家の意見も聞きながら改善を続けるとともに、これまでの調査結果から得られた仮説や、新たに組み込まなければいけないと考える分野の仮説等を検証できるよう、質問を検討していくことが重要であると考えています。

